

平成17年度 第16回 関東高等学校バスケットボール新人大会

平成18年2月12日(日)

【女子】 決勝 小瀬スポーツ公園体育館 Mコート 第3試合

東京成徳大学(東京)	100	$\left. \begin{array}{l} 25 - 18 \\ 25 - 14 \\ 25 - 13 \\ 25 - 22 \\ \dots \end{array} \right\} 67$	明星学園(東京)
------------	-----	---	----------

東京成徳大学(東京) コーチ 下坂 須美子

番号	氏名	得点	3ポイント		2ポイント		フリースロー		ファウル	リバウンド			アシストパス	スティール	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	計				
4*	有山 景子	21	5	8	2	4	2	3	1	0	5	5	3	3	1	5
5	石川 聖菜	4	0	1	2	2	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0
6*	山田 菜美	8	0	2	2	5	4	6	2	0	5	5	3	0	0	2
7*	天野 佳代子	20	0	0	7	12	6	6	3	0	4	4	4	1	2	1
8	川村 美穂	3	0	1	0	2	3	6	1	1	3	4	1	0	0	1
9	板坂 優貴	7	0	0	3	5	1	2	3	0	1	1	1	0	0	3
10*	光山 慈能	18	1	1	7	10	1	1	2	1	4	5	3	0	0	0
11	富田 夕貴	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
12	遠藤 真子															
13*	本田 雅衣	17	0	2	6	8	5	6	3	2	2	4	3	4	0	1
14	田尻 泰葉	2	0	0	1	5	0	2	2	2	2	4	0	0	0	0
15	野崎 春香															
16	片山 浅美															
17	小松 優															
18	塚田 美咲															
チーム										0	0	0				
合計		100	6	17	30	54	22	32	17	7	27	34	19	9	3	14

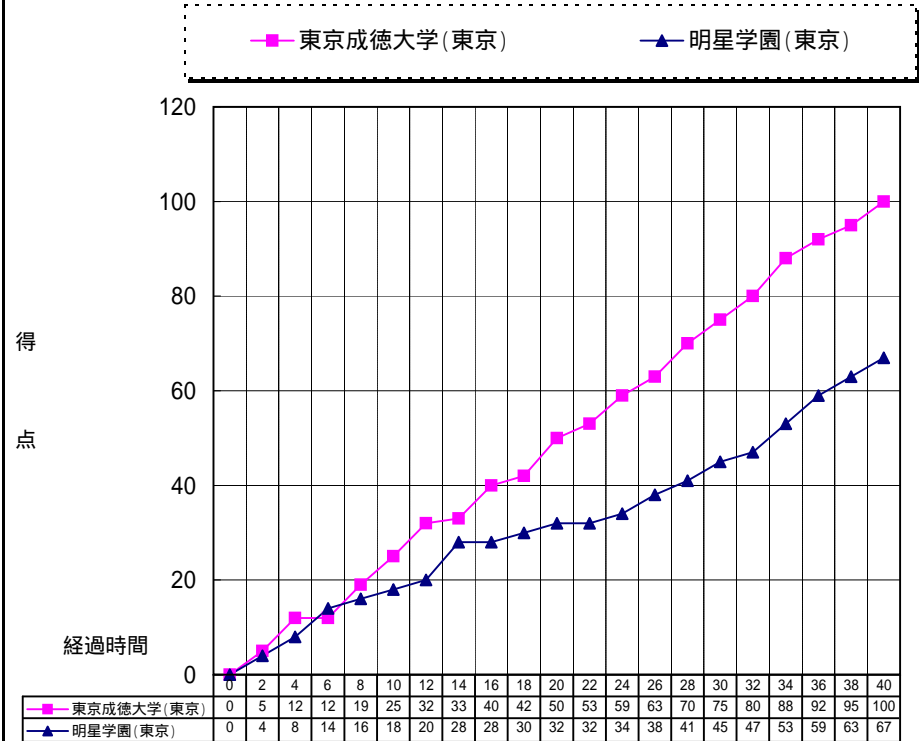
*:スターティングメンバー 確率 35.3% 55.6% 68.8%

明星学園(東京) コーチ 椎名 真一

番号	氏名	得点	3ポイント		2ポイント		フリースロー		ファウル	リバウンド			アシストパス	スティール	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	計				
4	桐山 唯子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	忽滑谷 友美	1	0	2	0	4	1	2	3	2	1	3	1	1	0	3
6*	飯野 菜季	26	0	1	11	26	4	4	2	2	8	10	8	1	0	3
7*	中島 ひろみ	4	0	4	2	5	0	2	2	0	6	6	4	3	0	8
8*	ジョン・ウェン	20	0	0	8	13	4	4	5	4	5	9	0	2	1	2
9*	佐橋 和枝	10	0	0	4	7	2	2	4	0	2	2	1	2	0	1
10	早坂 麻里奈	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
11*	石井 梨乃	4	0	2	1	4	2	2	5	1	6	7	2	0	0	4
12	菊地 恵璃香															
13	難波 満里絵	2	0	0	1	2	0	0	5	0	1	1	0	1	1	2
14	高野 静華	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
15	伊佐野 普華															
16	佐藤 麻衣子															
17	大房 弥世															
18	日原 晴香															
チーム										0	0	0				2
合計		67	0	9	27	61	13	16	27	9	29	38	16	10	2	26

*:スターティングメンバー 確率 0.0% 44.3% 81.3%

2分毎による得点の推移



戦評

成徳ハーフマンツ、明星変則マッチアップゾーンでスタート。立ち上がり成徳は明星のマッチアップゾーンを攻めあぐむ。しかし、成徳 有山の3Pなどで対抗する。明星はスクリーンを絡めたオフェンスで一進一退の攻防が続く。しかし、徐々に成徳は 光山、本田のシュートで引き離していく。2Qも成徳の厳しいマンツーマンディフェンスに対し、明星はなかなか得点できずにいたが ジョンの頑張りによって何とからいつく。しかし、成徳の個々の能力の高いプレーによって追いつくことができず前半を50-32の成徳リードで終える。後半、明星はディフェンスをマンツーマンに変えて直そうとするも、成徳は多彩な攻めから着実に加点していく。4Qに入っても明星は諦めずに頑張るが、成徳の厳しいディフェンスの前にリズムに乗ることができず得点が伸びない。一方成徳は大量リードの余裕から伸び伸びとプレーし、加点。終わってみれば100-67と成徳の個人能力の高さが目立ったゲームであり、今年も全国制覇への第一歩を踏み出した感じである。

主審 渡辺 整 (栃木)

副審 柳屋 伸明 (東京)

記入者 小野 利晴 (高体連)